KINGCA WEEK 2025　参加報告書

静岡県立静岡がんセンター
胃外科　古田土　高志

この度は、日本胃癌学会より参加助成を賜り、2025 年 9 月 22 日～27 日の期間に開催された Master Class および KINGCA WEEK 2025 に参加させていただきました。
今回、私が Master Class および KINGCA WEEK への参加を希望したきっかけは、当院が海外からの研修生を定期的に受け入れている環境にあることにあります。そのような中で、海外の先生方と交流を重ねるうちに、海外の医療事情や手術・治療法の違いに触れ、自身もいつか海外の医療機関研修プログラムに参加してみたいという思いを抱くようになりました。また、当科の先輩医師にも本プログラムへの参加経験があり、自身の今後の成長の契機になると考え、今回応募いたしました。

Master Class について

前半の 3 日間（9 月 22 日～24 日）は Master Class の研修期間であり、研修先はソウル市内の The Catholic University of Korea, Seoul St. Mary's Hospital でした。
同院は以前より当院と定期的に医師交流があり（新型コロナウイルス感染症の流行時には一時中断）、今回も大変好意的に受け入れていただきました。St. Mary's Hospital は年間約 400～500 例の胃切除術を施行しており、韓国国内でも屈指の High Volume Center の一つです。一方で、近年は日本と同様に外科志望の若手医師が減少しており、上部消化器外科のフェローが不在の状況とのことでした。
今回の Master Class には、私のほかにシンガポールから参加の先生もおり、他にもサウジアラビアからの研修医の受け入れも定期的に行っているとのことでした。研修内容としては、Prof. Song によるロボット支援胃切除術 を中心に見学させていただきました。
印象的だった点として、ロボット手術でありながら再建は腹腔鏡手術で行うハイブリッドスタイルを採用していたこと、また郭清操作は日本のような極めて精緻な手技よりも手術時間の短縮を重視していたことなど、いくつかの違いを直接実感できました。さらに、ICG 局注によるセンチネルリンパ節同定を術直前に行い、郭清範囲の指標としていた点も特徴的でした。
また、韓国では**NP（Nurse Practitioner）**が重要な役割を担っており、術野での動きは日本の外科医と遜色なく、医師に対しても積極的に意見を述べ、閉創も NP のみで完遂するなど、非常に印象的でした。外科医不足が懸念される日本においても、こうした NP の活用は今後の一つの参考になると感じました。
その他、手術以外にもカンファレンス参加、病棟回診、内視鏡見学、さらにトレーニングセ

ンターでは韓国で一般的に使用されている多関節腹腔鏡デバイスや da Vinci シミュレーターの体験もさせていただきました。
特に印象に残ったのは、外科ローテート中の学生による症例報告プレゼンテーションです。学生の段階から堂々とした発表を行っており、韓国の医学教育のレベルの高さを感じました。研修期間中は、韓国およびシンガポールの先生方と医療制度や臨床現場の違いについても意見交換する機会があり、短期間ながら極めて有意義な研修となりました。初日には歓迎会も催していただき、韓国文化への理解と親睦を深めることもできました。

KINGCA WEEK 2025 について

後半の 3 日間（9 月 25 日～27 日）は、KINGCA WEEK 2025 に参加いたしました。私の発表は E-Poster であったため口頭発表はありませんでしたが、Master Class でご一緒した先生方と発表内容について議論を深めることができました。
KINGCA WEEK では、ほぼ全ての発表が英語で行われており、英語での発信力の重要性を改めて痛感しました。また、韓国のみならずアジア・ヨーロッパ各国から多数の参加者が集まっており、国際的な注目度の高さを実感しました。幸運にも、以前当院で研修を行った海外の先生とも再会することができ、国際学会に参加する意義と交流の大切さを改めて感じました。
演題内容としては、HIPEC（腹腔内温熱化学療法）や Reduced Port Surgery など、日本ではまだ一般的でない領域の発表も多く、一方で手術手技に関する演題は日本の胃癌学会と比較すると少ない印象でした。この違いから、日本と海外における胃癌治療の考え方の差を実感しました。

総括

約 1 週間にわたる海外研修を通じて、日本と世界の胃癌治療における相違点を多く学ぶことができました。同時に、自身の未熟な点を再認識し、今後の研鑽への強い動機づけとなりました。最後になりますが、このような貴重な機会を賜りました日本胃癌学会関係者の皆様、また参加をご快諾・ご支援いただいた当院の寺島雅典先生、坂東悦郎先生に心より感謝申し上げます。
胃癌治療に携わる若手医師へのメッセージとして、Master Class および KINGCA WEEK への参加は、間違いなく自身の成長につながる経験になると確信しております。興味のある先生方は、ぜひ参加を検討されることをお勧めいたします。

研修先の The Catholic University of Korea, Seoul St. Mary's Hospital

Prof. Song(写真左)、他の Master Class 参加者と手術室にて

Prof. Lee(写真左端)より研修修了証をいただきました

da Vinci シミュレーターを体験する筆者

幸運にも、かつて当院で研修を行われた Li 先生(写真右)と再会する機会を得ました